

福島県学校給食研究会
栄養士部会

第85号

平成 26 年 9 月 1 日
福島県学校給食研究会
栄養士部会
発行責任者 井間 眞理子
担当 相 双 支 部

会 報

未来を担う子ども達を育てるために

福島県学校給食研究会 会長 福島市立蓬莱小学校 校長 及 川 義 道

学校栄養職員の皆様が日々、大変忙しい中、学校給食の安全安心に細心の注意を払うとともに、栄養のバランスを考え楽しい食事ができるように様々な工夫をして取り組まれていることに感謝いたします。また、食物アレルギーの対応では、給食現場で調理師とともに大変な努力をされていることに頭が下がる思いです。

ある栄養士の方が大学で講義をされた時、学生から「栄養士とは？」と聞かれたそうです。「私は、仕事が世の中のために役に立っているかを第一に考えて働いています。そのために栄養士として何が必要か。食を通して人を元気にする仕事なのだから自分自身が一番元気であることが大切だと思っています。」と答えたそうです。科学の進歩により去年聞いた話が今年は通用しないこともあり、新聞、雑誌、講演会から多くの情報を得ているとのこと。さらに学校給食、保育園や幼稚園、病院などさまざま

な給食の状況に足を運び学んだそうです。高齢化社会の日本の食を考える上で、各世代を学ぶ必要があると考えたからです。

昨年12月、ユネスコにおいて「和食」が無形文化遺産に登録されました。日本の伝統文化である和食が日本の美的感覚、健康を考えた伝統的な調理技術とともに高い価値があることが認められました。すばらしいことです。また、今、栄養バランスの優れた「日本型食生活」が見直されています。世界に誇る日本のすばらしさを私たちはもう一度確認し、そして子ども達に伝えていきたいものです。私は、子ども達がすくすくと成長し地域や日本を担う大きな力になるよう、よりよい社会に向けて様々な場を通して、広く深く学び続けていくことが大切だと感じています。



仲間とともに

福島県学校給食研究会 栄養士部会長 井 間 眞 理 子

この度の役員改選により部会長になりました、福島市・川俣町学校給食センターの井間眞理子です。

5月12日付の民友新聞の一面を飾った「本県の栄養教諭数全国ワースト2位」の記事が目飛び込んできました。記事には、「原発事故の影響で児童の肥満傾向や地元産食材への風評被害、放射能不安など学校教育でも食にまつわる課題が多く、栄養教諭の必要性が高まっている」とありました。今年度は勤務環境が改善され、栄養教諭採用数は4名と志願者が増えたことは大変喜ばしい限りです。さらに定数が拡大され大幅な配置増になることを願うばかりです。

昨年度の福島県学校給食研究会栄養士部会研修会の閉会式で、前部会長が「みんなが栄養教

諭になることができるように、先輩方が築いてきた思いをバトンタッチして欲しい」と挨拶されました。様々な勤務態様や事情をかかえている仲間を気遣い、お話するのを躊躇されている様子が痛いほど伝わってきました。私たちは一人職場であることが多く、また、置かれた状況も様々です。どんな状況の中でも、少しずつ前進できるように、会員一丸となって児童、生徒の「生きる力」の基盤となる食育を推進していくことが使命だと思います。そのためにも、仲間と共に手と手を取り合いバトンを広げていきましょう。私も微力ながら食の持つ大きな力を伝えることができるよう、お手伝いしたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

食のコーチングスタッフ

福島県教育庁健康教育課 課長 笠井 淳一

震災から3年半が経とうとしています。子どもたちの健康と安全・安心のため、食を通して日々ご尽力いただいている皆様に対し心より敬意を表します。

震災から2か月ほどたった頃、避難所支援に当たっていたある知人が、次のように話していました。

「震災直後と比べて状況が変わってきている。支援といっても全てお手伝いするというのではなく、可能な方には精神面も含め自立をめざして支援している。その人に寄り添いながらアドバイスする。こういうのもコーチングって言うんだっただけかな？」

彼の話から、スポ少の手伝いをしていたころ目にしたジュニア用指導書を思い出しました。そこにはコーチに必要な資質として、“COACH”のそれぞれの文字を頭文字として右の5つが挙げられていました。

栄養教諭・学校栄養職員の皆さんは、学校など様々な場面における食のコーチングスタッフと言えるのではないのでしょうか。スタッフ間のコミュニケーションを密に食育の推進を図りな

【C: Comprehension (理解力)】

選手一人一人の特徴や力量を理解するとともに、ゲームをよく読み、理解する。

【O: Outlook (前途の見通し)】

それぞれの種目を楽しませること、心技体を変化させることなどのバランスを常に考え、シーズンを見通した展望と目標を持つ。

【A: Affection (愛情)】

コーチ自身がその種目に対して愛情を持つとともに、選手一人一人に愛情を持って指導する。

【C: Character (人間性)】

常に自己を振り返り、人間性を磨く努力をする。

【H: Humor (ユーモア)】

厳しい練習を楽しく取り組むことができる練習とするとともに、選手の記憶の中に失敗などマイナス面を残さないようにする。

がら、子どもたちの笑顔のため各学校の教育活動がより一層充実したものとなりますよう、皆様のご活躍にご期待申し上げますとともに、栄養士部会の益々のご発展をご祈念申し上げます。

双葉郡、双葉町の現状と学校給食

双葉町立双葉南小学校 校長 日野 俊 隆
(県学校給食研究会双葉支部長)

はじめに双葉郡の現状をお話します。双葉地区には小学校17校、中学校11校、計28の小中学校があります。そのうち小学校4校、中学校2校、あわせて6校がいまだに臨時休業中です。22校は再開していますが、本来の場所で再開した学校は、広野と川内の小中学校の4校のみで、その他の学校は、他の地区(二本松、三春、会津、いわき)で再開しているという厳しい状況です。給食もそれぞれの地区でお世話になっています。

次に双葉町についてですが、双葉町立幼稚園、小学校、中学校がこの4月に、3年ぶりに再開しました。給食については、4月8日からいわき市平にある榎葉町振興公社様に調理委託をし、毎日ほんとうに美味しい給食を提供いただいています。小学校、中学校とも子どもたちと教職員が一緒に会話をしながら楽しく給食を食べています。町教育長も週1回一緒に食べています。そして毎日、「給食ひと口メモ」のコーナーがあり、担当の先生や子どもたちが、献立

に関わる「栄養の大切さ」や「食文化」などの発表を行っています。学校給食は、成長期の子どもたちの心と体の健康を支える大切な昼食であるとともに教育の一環、食育でもあります。毎日のこのような活動を通して、子どもたちは、「食事のマナー」や「感謝の心」も学んでいます。私自身も子どもたちと会話をしながら食事をする中で子どもたちからいろいろなことを学んでいます。そして、学校給食は子どもたちの「心の教育」にもなっていると確信しています。学校給食をもとに、子どもたちが生涯にわたって自分自身で健康を守り、健全で豊かな生活を送ることができるようになって欲しいと思います。



子どもたちの健やかな成長を願って

新地町教育委員会 教育長 佐々木 孝 司

新地町内の全小・中学校4校が文部科学省から「スーパー食育スクール」の指定を受け、「震災後の学校における食育の課題（地域の食材の活用等）解決に向けた取組」をテーマに事業を展開することになりました。

小・中学校には727名の児童生徒が在籍しています。そのうち津波や原発事故被害関連で仮設住宅に入居している児童生徒は117名、区域外就学は63名を数えます。「食生活に関するアンケート」調査では震災後の過酷な生活環境の中でも、児童生徒の朝食摂取率は約90%の高い数値を示しています。このことから、保護者の皆様が「食育」の大切さを心に刻み付けて生活なされているのが理解できます。また、家族と一緒に食事をする習慣も定着しています。さらに、小・中学校の社会科や総合的な学習の時間等の授業展開の中で、被災地である「新地町の未来」について自分の意見や建設的な考えを持っていることもわかっています。

反面、震災以降は食生活を含む生活環境の変化や運動不足等により肥満傾向の児童生徒の増加が顕著で、現在10%を超えています。また、放射性物質による食材汚染への不安が払拭され

ていないために給食の地場産品（福島県産）の導入率は8～13%と未だに低い数値です。



学校給食では、県や町の尽力下で安全・安心な食材を提供しています。この事業では栄養教諭を中心に、東京大学医科学研究所・日本原子力開発機構・地元関係諸機関・養護教諭のご協力を仰ぎ、安全・安心なバランスのとれた給食の提供を推進する等、地場産品利用について活路を見出すとともに児童生徒の肥満傾向の改善や伝統ある地域食文化の継承に努めます。

また、専門家による食育講演会や食育講座（親子調理実習）を開催いたします。相馬地方には開催文書を送付し、また新地町教育会ホームページでもお知らせします。詳細につきましては、駒ヶ嶺小学校の小泉弘子栄養教諭にお問い合わせいただいても結構です。是非、多くの皆様のお知恵とお力添えをお願いいたします。（連絡先：新地町教育委員会 ☎0244-62-4477）

喜多方共同調理場の食育の取り組み

喜多方共同調理場 主任栄養技師 武藤 久美

当共同調理場は、旧喜多方市内の小学校9校と中学校3校の計12校の完全給食を実施しています。牛乳給食であった中学校3校に完全給食を実施するため、旧共同調理場等の統合が進められ平成20年4月から開始となりました。

喜多方市の食育ですが、き（郷土愛）た（食べる力）か（感謝の心をもった）た（たくましい「きたかたっ子」）を柱に、毎月19日かその前後に「食育の日献立」を入れています。献立表は掲示用と配布用を作成し、毎日の給食についての食育だよりも発行しています。受配校の食育授業については、市教委で年度末に受配校12校の要望をまとめ、当調理場に伝えられます。それから受配校の食育推進コーディネーターと打ち合わせとをし授業となります。当調理場は栄養職員2名の配置でするのでそれぞれに分担して授業を行っています。また、小学校新1年生の保護者を対象とした試食会も行い、その都度学校訪問をして、子どもたちの食べる様子や保

護者の感想や意見などを聞き、給食運営の参考としています。

しかし、当調理場は食数が多いため、調理にいろいろな制約があり、なかなか思い通りの献立が出来ないのが悩みです。小学校がパンや麺の火・木曜日は3本献立となります。その上、アレルギー対応の児童生徒が約60名と多く、前日のうちに全受配校にFAXで連絡表を送付し、対応に間違いがないように心がけています。

日々の調理業務に追われ、食育に費やす時間の確保が大変です。しかし、給食を待っている児童生徒たちのためにも、食育の時間の確保がこれからの課題だと思えます。



新採用紹介

「学校栄養職員としての抱負」

北塩原村立裏磐梯小学校 栄養技師 馬場 愛季穂

着任してから約半年、毎日子どもたちと一緒に給食を食べられることに幸せを感じています。最初は先生と呼ばれることにも戸惑いがありましたが、校長先生に「ただの栄養士ではなく、学校栄養職員だという意識を大切にしてほしい」とお言葉をいただき、教育者の一員としての自覚と責任を感じました。これから先輩栄養士の先生方のように、児童生徒のための給食作り、食育の推進にがんばってまいりますので、ご指導よろしくお願いいたします。

「学校栄養職員となって感じたこと」

相馬市立桜丘小学校 栄養技師 丹 有希乃

学校に勤務し、実際に子どもたちを目の前にして、食と健康を守り育てることへの責任を感じています。衛生管理や献立作成においては自分の未熟さを痛感する毎日ですが、調理員の方々、多くの先生方に助けていただきながら無事に給食を出すことができます。子どもたちの素直な反応や笑顔が見られることは何よりの原動力となっています。給食を通して、食の楽しさや感謝の心を子どもたちに伝えられるようにこれからも努力していきたいです。

「今できることを最大限に取り組む」

鮫川村学校給食センター 栄養技師 小川 美波

4月から初めて勤務し、不安がたくさんありましたが、多くの方々にご指導していただき、少しずつ気持ちに余裕を持つことができました。

鮫川村学校給食センターは、地産地消の取り組みが盛んで、子どもたちが「食」への感謝の気持ちや郷土愛を育むためにとても恵まれた環境です。子どもたちへ安全安心でおいしい給食を提供することだけではなく、地域の食文化や特色を学び、献立に取り入れていきたいと考えています。

「学校栄養職員として」

須賀川市立第三小学校 栄養技師 佐川 文乃

早いもので、栄養技師として赴任してから半年が過ぎようとしています。慣れない仕事に戸惑うこともありますが、「今日の給食美味しかったです!」、「今日も残さず食べました!」と、声をかけてくれる子どもたちに元気づけられながら毎日楽しく過ごすことができます。

近年、学校給食に関する課題は山積してはいますが、安全・安心な給食の提供、そして食や健康に興味を持っていただけるよう、魅力ある献立の作成に励んでいきたいと思っています。

「学校栄養職員となって」

福島県立石川養護学校 栄養技師 池田 望

学校栄養職員となって半年が経ち、ゆっくりではありますが徐々にこの環境にも慣れ始めてきました。職を同じくする仲間が近くにいない寂しさはありますが、周囲の方々に支えられながら日々仕事に励んでいます。これからさらに栄養職員としての学びを深め、仕事に生かしていきたいです。

まだまだ不安なことばかりですので、何かありましたときにはご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。先輩方にお会いできることを楽しみにしています。

「楽しく、安全安心な給食を」

福島県立相馬養護学校 栄養技師 服部 恵未子

私が相馬養護学校に栄養技師として勤務し始めてから、約半年となりました。失敗ばかりの毎日ですが、たくさんの方々にご指導いただきながら、安全安心な給食を提供出来るよう業務に取り組んでいます。わずか数ヶ月ですが、子どもたちと関わる中で、毎日の給食をとっても楽しみにしていることが伝わってきます。

子どもたちにとって給食が楽しい時間であり、そして食の学びの場となるよう工夫をこらしながら給食を提供していきたいと思っています。



平成26年度の役員紹介	部会長	井間真理子	理事	県北方部長	小野 陽子
	副部会長	赤津由紀子		県中方部長	大関三千子
	"	橋本恵久子		県南方部長	近内千由里
	庶務	本田 優子		会津方部長	細野 貴代
	会計	草野みゆき		南会津方部長	横山 実生
	監事	野内 容子		相双方部長	佐藤 優美
	"	志賀 敦子		いわき方部長	志賀 保子
	顧問	横田みえ子			
	参与	田村 正美			
	"	川本 輝子			

今年度は役員改選の年にあたり、上記の方々を選出されました。二年間よろしくお願いいたします。

編集後記

会報発行にあたり、お忙しい中原稿をお寄せいただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

今年度は、新採用の仲間もたくさん増えました。この若い力とお互い協力し、学校給食を充実したものにしていきたいでしょう。